

第10回 府中市総合計画審議会会議録（要旨）

開催日時 令和3年10月15日（金）午前10時～午前11時30分

開催場所 府中市役所西庁舎3階第2～4委員会室

出席委員 25名（50音順）

赤野秀二委員、市川耕作委員、伊藤敏春委員、上野和憲委員、
榎本久美子委員、奥村さち子委員、金子 憲委員、古森寛樹委員、
小山有彦委員、佐藤新悟委員、志水清隆委員、長崎益治委員、
中島正裕委員、中村洋子委員、奈良崎久和委員、にしみや幸一委員、
濱中重美委員、平田嘉史委員、藤江昌嗣会長、前川浩子委員、
増山あすか委員、森田直行委員、森本 憲委員、吉田征予委員、
和田光一副会長

欠席委員 5名（50音順）

落合法子委員、小島壽一郎委員、新島 香委員、峯 佳毅委員、
吉田ゆり子委員

出席説明員等

高野市長、大井政策課長、岡村政策課副主幹兼行政経営担当副主幹兼
総合計画担当副主幹、大木政策課主査、橋本政策課主任、桜田政策課
月額制会計年度任用職員、三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）
大塚氏

傍聴者 なし

議事日程

- 1 開会
- 2 確認事項
第9回府中市総合計画審議会会議録（要旨）について
- 3 審議事項
第7次府中市総合計画（答申案）について
- 4 答申
- 5 その他

会議録（要旨）

藤江会長 ただいまから、第10回府中市総合計画審議会をはじめます。事務局から本日の委員の出席状況を報告してください。

事務局 出席状況を報告します。
（出席状況及び会議有効成立の報告）

藤江会長 事務局から本日の傍聴希望の状況を報告してください。

事務局 本日、傍聴希望者はいません。

藤江会長 次に、事務局から本日の配布資料を説明してください。

事務局 資料は、事前に郵送した4点と本日机上に配布している2点となります。
（配布資料の確認）

確認事項

第9回府中市総合計画審議会会議録（要旨）について

藤江会長 前回の第9回審議会の会議録が資料10-1として事前に郵送されましたが、指定された期日までに修正等の連絡はなかったと事務局から報告を受けています。最終確認になりますが、修正等について意見はありますか。

（挙手及び発言なし）

藤江会長 それでは、第9回審議会会議録は資料のとおりの内容で確定としますので、事務局は速やかに公開の手続きを行ってください。

審議事項

第7次府中市総合計画（答申案）について

藤江会長 第7次府中市総合計画答申案について、これまで委員の皆様から多くの意見をいただいて、その修正を反映した答申案ということで最終確認になります。まず、事務局から説明してください。

事務局（資料10-2と10-2-1に基づき説明）

藤江会長 事務局から資料に基づく説明がありました。

委員の皆様は事前に内容をご確認いただき、特に修正等の意見はなかったと事務局から報告を受けていますので、この後、市長に答申する内容として、この資料10-3、資料10-4を答申と答申の鑑文として決定してよろしいでしょうか。

にしみや委員 前回、施策44の美術館入館者数の指標の目標値が基準値より下がっていることを指摘したが、今回の資料では、31万人に修正することで、下がらない目標を設定したことについては理解する。ただ、基準年は人気の企画展が複数開催された年であり、基準値自体が平年よりもかなり高い数字となっている一方で、目標年度（令和7年度）までに同じような企画展を実施できるか現時点で確固たる見通しが立っていないのであれば、事務事業評価、施策評価等でこの数字を基準として使うと、かなり低い評価になってしまう可能性がある。評価を前提に設定しているかという点について疑問に感じることもあるので、標準的な年だとかこういう入場者数だが令和元年度はこれだけ高かったという基準値についての説明の記述を加えるなど、対応を検討した方が良いのではないかと。

事務局 施策44「文化施設の有効活用」の美術館の指標について、前回の会議で、平年より水準が少し高い年を基準としている旨をお答えしましたが、委員から基準値や目標値を見直すなど整理が必要とのご意見をいただき、今回修正したものです。

基準とした令和元年度は、「へそまがり日本美術展」や「棟方志功展」、「おかえり美しき明治展」など人気の高い企画展が数多くあったため、この数値を超えるのはかなり大変だという担当課の意見もありましたが、チャレンジ精神を持って高みを目指して臨んでいくという意味合いから、この数値目標に変更いたしました。

その上で、これから進行管理をしていくにはもう少し説明が必要ではないかのご指摘ですが、計画書の指標設定については、施策の見方のページなどを用いて、全体的な考え方をお示しする予定です。具体的には、原則として最新値を掲載するものの、コロナの影響で数値の変動が大きかったものについては、令和元年度の値などを採用する場合もあるという説明書きを加えます。

また、指標を管理していく上では、進行管理のための評価シートを活用する予定ですので、こちらに個々の指標の設定に関する詳細について記述して、毎年の進捗状況を管理していきたいと考えています。

にしみや委員 通常よりも高い設定をするのであれば、令和7年度にこれだけの企画展を行うなどの見通しがあってしかるべきだと思われ、今後の予算状況も踏まえて分からないということであれば、平均的な年の値をベースに設定することもあり得る考え方だと思う。ここで、値を定めて終わりとするのではなく、今後、進行管理されることを念頭に入れて指標を設定するよう、担当部署で考えてもらいたい。

藤江会長 その他にもこれから行われる市民意識調査の結果に基づいて目標値を設定するものが、幾つか残されています。同じような扱いで、進行管理を意識して、前提条件等を整理した上で、もう一度担当課に数字を確認してもらおうこととし、言葉の補足については、先ほど事務局から説明があったとおり対応していただければと思いますので、ほかの暫定値と同じような形で最終的に固めたいと思います。そのような扱いでよろしいでしょうか。

(挙手及び発言なし)

藤江会長 それでは、市長に答申する内容としては、この資料10-3を答申の本文、10-4を答申の鑑文として、ここで内容を確定することとして、よろしいでしょうか。

(賛成の声あり)

藤江会長 本日までご審議いただいた内容をもって、昨年7月に市長からいただいた「令和4年度から始まる新しい府中市総合計画を策定すること」という諮問に対する答申として決定し、資料10-3の表題から「案」を取って、本日付で「答申」とします。それでは、今日の会議のこの後の流れについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 次は、次第4「答申」として、会長から市長に答申をしていただく予定ですが、市長にお渡しいただく答申書の調整等に若干時間が必要ですので、10分程度いただきたいと思っております。

藤江会長 それでは、ここで10分程度の休憩とします。

(休憩)

答申

藤江会長 それでは、高野市長がおいでになりましたので、審議会を再開し、次第4「答申」に移ります。事務局からお願いします。

事務局 答申に当たり、藤江会長より一言お言葉をいただきたいと存じます。藤江会長、よろしく願いいたします。

藤江会長 委員の皆様にはコロナ禍の中、昨年7月から長期にわたり大変熱心にご議論いただき、また、忌憚のない、かつ建設的なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。また、和田副会長を委員長とした起草委員会につきましては、大変お忙しい中、この審議会の合間に7回にわたる会議を開催いただき、非常に丁寧に内容をご検討いただくとともに、審議会の資料として取りまとめていただきました。和田副会長をはじめとした起草委員の皆様、本当にありがとうございました。

第7次府中市総合計画は、コロナ禍の中での会議の持ち方も含めて、委員の皆様方にはいろいろご苦勞、お氣遣いをいただいたかと思っております。ご協力に対しまして、深く感謝を申し上げます。

これから市長に答申をお渡しいたしますが、無事答申が完成したことについて、改めて皆様に心から御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

事務局 続きまして、藤江会長から高野市長へ、府中市総合計画について答申をお願いいたします。

藤江会長 3府総審発第1号 令和3年10月15日、府中市長高野律雄様、府中市総合計画審議会 会長 藤江昌嗣。

「府中市総合計画について(答申)」

令和2年7月16日付け2府政政発第74号で諮問のあったことについては、次のとおり答申します。

- 1 第7次府中市総合計画は別添の内容を踏まえて策定してください。

2 新型コロナウイルス感染症の拡大や少子高齢化の進展など、先行きが不透明な中、様々な環境の変化に柔軟に対応しながら、誰もがこのまちで安心して心豊かにいきいきと暮らし続けることができるよう、総合計画に基づく各施策を着実に推進してください。

3 本答申に示した総合計画に盛り込むべき内容は、協働によるまちづくりを更に前進させるため、市民と市職員による府中市総合計画市民検討会議を始め、無作為抽出の市民による府中市タウンミーティングや、市内の団体・事業者・大学による府中市グループミーティングなどを通して、これまで以上に多くの市民からの意見・提案を踏まえて作成されたものです。各施策や取組の実施に当たっては、この協働の視点を十分に意識してください。

4 総合計画に掲げるまちづくりの方向性などを多くの市民と共有し、共感してもらうことが協働の推進につながるものと考え、読み手に分かりやすくなるよう留意しながら、総合計画に盛り込むべき内容の審議を重ねてきました。計画を策定した後は、協働の裾野を広げる意識を持った上で、様々な場面・各種媒体を活用して総合計画の周知を図ってください。

5 各分野の施策や重点プロジェクトの進行管理については、協働によるまちづくりの推進に資するよう、市民参加による評価を実施するなど、市民が直接関わる仕組みを検討してください。

事務局 ありがとうございます。それでは、ここで高野市長から委員の皆様へご挨拶を申し上げます。高野市長、よろしくをお願いします。

高野市長 ただいま藤江会長から府中市総合計画審議会の答申書を受領いたしました。藤江会長、和田副会長をはじめ、委員の皆様には昨年7月16日に第1回の審議会を開催していただいて以来、1年以上に渡りまして、コロナ禍の大変厳しい状況の下にもかかわらず、第7次府中市総合計画の策定に向けて、非常に熱心に大所高所からご審議を賜りましたことを、この場をお借りして深く厚く御礼を申し上げます。

この答申書の作成に当たっては、ただいまの藤江会長の答申文の中にもありましたように、府中市総合計画市民検討会議をはじめ、タウンミーティングやグループミーティングなど、様々な機会を通じて市民の皆様から頂戴した幅広いご意見やご提案などを基に検討を進め、まとめていただいたものと思っております。私もタウンミーティングに数回参加をさせていただきましたが、本当に熱心に市民の皆さんがご発言をされておりまして、非常に心強く思ったところでもありました。

今後は、この答申の内容を基に、庁内における手続を経た後に、基本構想を市議会にお諮りいたしまして、今年度中に第7次府中市総合計画を策定してまいりたいと考えております。

また、計画策定後には市民の皆様に対して内容を丁寧に説明し、広く周知を図るとともに、各施策や事業の実施に際しては、改めて市民との協働を意識して取り組んでまいりたいと強く思っております。

結びに、委員皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私からの御礼の挨拶とさせていただきます。本当に長期間にわたりありがとうございました。

その他

藤江会長 無事に答申を行うことができました。

次に、次第6「その他」ですが、委員の皆様から何かございますか。事務局から何かありましたら、お願いします。

事務局 事務局から1点お願いがあります。この後、次回の総合計画策定作業へのアドバイスも含めまして、委員の皆様から今回の審議会でのご経験を通じて率直なご感想やご意見など、お聞かせ願えれば幸いです。よろしく願いいたします。

藤江会長 それでは、今、事務局からありましたが、私からも委員の皆様方から一言ずつ感想を含めたご意見等をいただければと思います。赤野委員から席の順番によろしく願いいたします。

赤野委員 皆さん、コロナ禍の中、1年余りにわたりご苦労さまでした。私自身もこのような会議に委員として参加するのは初めてでしたが、皆さんの様々な意見を聞きながら、自分が意見を申し上げた部分で、反映できなかった部分もありましたが、この答申を踏まえて計画が策定され、実施されていくについては、今後も見守っていきたいと思います。

市川委員 私も総合計画審議会のことは右も左も分からない状態で参加しまして、非常に勉強になりました。農業委員会の立場で若干コメントさせていただきましたが、この内容を今後改めて読み直し、府中市についての理解を深めていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

伊藤委員 来年度から8年間の計画策定に参加させていただき、勉強させていただきました。そして藤江会長、和田副会長、大変ありがとうございました。膨大な資料を作っていただきました事務局の皆様、本当にありがとうございました。

上野委員 住宅情報サイトのスーモが毎年「住みたいまちランキングベスト50（一都六県関東地区）」、それから「住みたいまち50」をリストアップしています。住みたいまちというのは、これはイメージですから、いつも吉祥寺、恵比寿、横浜などの常連が上位を占めますが、住みたいまちランキングは変動が多く、今年2021年に第1位に輝いたのが、武蔵野市です。三多摩では29位の国立市に続いて、府中市は31位でした。このことについて非常に誇りに思っていて、今回総合計画を策定して、この計画どおり進めれば必ず順位は上がっていくのではないかと思いますので、これからも見守っていきたいと思います。市民は基準値や目標値を見るのではなく、スーモなどの情報を見ているということをご理解いただきたいと思います。

そこで1つだけ懸念の点を話しますと、40ページの「健全で持続可能な財政運営」に「常に歳入に見合った歳出となるよう行財政運営を進めていきます。」とありますが、市民の立場からすると、歳入に見合った歳出ではなく、歳出に見合った歳入を確保するよう行財政運営を進めていただきたい、というのが本音です。そうでないと、せっかく施策を提案しても実行が危うくなります。歳入の確保については、競走事業の収益の確保の記述がありますが、これも年間5億円程度で、これだけでは心もとない。やはり税収だと思います。市の財政に関する議論をやりたいと思っているうちに終わってしまったので、これから先も市民の知恵を入れて、歳入を確保するための施策について議論する場があればいいと思った次第です。

榎本委員 府中に住んで28年になります。先ほどもけやき並木から大國魂神社を歩いていて、本当に気持ちがいいなと、そして、このような場所が多い府中市は本当にいいところだなと感じながら歩いてきました。

私は島根県の津和野町という小さなまちで育ちました。町民みんなが顔見知りで、みんなが挨拶をするようなまちで、感じる心いっぱいになったのだなと最近思います。人間はやはり感じることと考えること、その両輪で生きているということ強く感じます。人が動くのは、「分かっちゃいるけどやめられない」という歌が流行ったように、やはり感じる心、うれしいとか楽しいとか気持ちいいという心があって動くのだとよく思いま

す。総合計画の重い冊子を開く市民がどれぐらいいるのだろうかと考えると、これを読むためには、やはり考えたり論理的思考などができないと、読むことすらできないのではないかと感じます。以前、この会議の中で、未来が見えるような動画や絵本などができたらいいのにとお話ししましたが、それが実際に実現したら良いと思っています。よろしくお願いします。

奥村委員 今回の策定に当たって、無作為抽出という形でタウンミーティングに若い方が参加されたことは、とても有効であったと感じています。これからの社会を担っていく若い方の意見を尊重して、具体的な施策や事業に取り入れていただきたいと切に思っています。

また、市民協働の視点が全体的に網羅され、ステップアップの形で進めていくことを確認できました。さらに市が積極的に現場に出て、市民協働が継続できるよう支援に積極的に取り組むことを常に視野に入れながら、具体的な事業を進めていただきたいと思います。委員長、そして起草委員の皆様、委員の皆様、お疲れさまでした。

金子委員 今回初めて府中市の審議会に参加させていただきました。23区や、府中市の近隣市の審議会にも参加していますが、府中市の特徴は、委員の人数が大変多いというのが第一印象でした。人数が多いにもかかわらず、皆さん建設的な意見が出ているというのが率直な感想です。

また、起草委員会にも所属させていただいたのですが、そこでは和田副会長の下、少人数の中で本当にそれぞれの立場から凝縮した忌憚のない意見交換ができ、それが実質的に審議会に上がってきて、本当にいい答申ができたと思っています。

今は都市間競争の時代ですので、府中が少しでも魅力的で住みやすいまちになるように心から願っています。皆さんとご一緒させていただいて本当にうれしく思いました。

古森委員 委員の皆様には限られた時間の中で活発なご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。今後、取りまとめていただきました答申に基づきまして、計画策定の手続を進めさせていただきます。本当に長い間どうもありがとうございました。

小山委員 藤江会長、和田副会長をはじめ、審議会委員、起草委員、事務局職員の皆様方、取りまとめていただき本当にお疲れさまでした。

何よりもこの総合計画審議会での議論された内容、またそれぞれ各委員の

皆様から出された意見など、十分、私も拝聴させていただきましたので、これらを地元府中市の総合計画に反映されるのはもちろんですが、引き続き都政のほうにも、府中市と連携する中でそれらの声を反映できるよう努めてまいりたいと考えています。

佐藤委員 私は、この総合計画の審議会への参加は前回に続いて2回目でしたが、前回と比較すると、コロナ禍の中、時間的、空間的に厳しい制限があった中で、非常に中身の濃い議論ができたと思います。今後この計画が実施されるに当たっては、様々な形で注視をさせていただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

志水委員 府中市総合計画審議会、また、起草委員会も含めて参加させていただきました。非常に勉強になりました。これほど様々な意見があるとは思っていませんでした。そういった意見を取りまとめていただいた事務局の皆様方、本当に大変だったと思いますが、こういった形で出来上がったということは素晴らしいことではないかと思っています。せっかく出来上がったこの計画が、今度は実施されるに当たって、1つ1つ目を通しながら実施されていくように願っています。本当に会長、副会長ありがとうございました。

長崎委員 藤江会長、和田副会長を中心にまとめていただき、ありがとうございました。そして事務局の皆様方、大変お疲れさまでした。コロナ禍になって1年以上ですが、私がよく口にしていたのが、変化は自分の想定したスピードでは変化しないということです。長い期間の総合計画を立てたわけですが、その間に想定外のこともあり得ます。自分たちの想定したスピードを超えて変化をすることもあるので、多くの皆さんが集まって様々な視点からの意見を問う、論議をするということは非常に良いことと思います。ぜひ、多くの皆さんが集まるこの形での審議会继续していただきたいという意見を申し上げて、私からは以上となります。

中島委員 お世話になりました。私は、起草委員会にも参加させていただきました。起草委員会の中ではこちらの審議会からいただいた200を超える指摘を1つ1つ議論していくというプロセスを経験させていただきました。非常に勉強になりました。

私はまちづくりを授業の中で担当していますが、総合計画を教えるのは簡単なようで、学生にとっては何となくイメージは湧くけれど、どうい

ものなのか、それがどういう意味があるのかなど、なかなか伝えづらい部分もありました。今回経験する中で、中身は非常に大切だが、それと同じぐらい策定のプロセスが大切だと思いました。いろいろな立場の方がいるいろいろな観点から指摘されたものを、どのようにこの計画の中に反映させていくのか。できないものはなぜできないのか、というところを、議事録も残っていますので、大学での授業の教材として今回の総合計画を使わせていただくとともに、私が直に感じたことを学生に伝えていきたいと思っています。

中村委員 この新型コロナウイルス感染症は今まで誰も経験したことがない大変な世の中で、委員の皆様も、それから事務局の皆様もいろいろご苦労があったことと思います。答申、そして、会議での皆様のご意見を思い出しながら、所属団体の中でも、個人的な生活でも生かしていきたいと思っております。

奈良崎委員 第6次のときにも委員として参加していて、それまで10年あるいは12年だった計画を、8年が適切なのではないかと意見を言ったのですが、今、8年間というのが短いようで長く、長いようで短いと思っています。次の8年間についても、前期・後期4年ずつありますが、この中でも様々な変化やコロナのような新たな課題なども出てくると思います。それらに適切に対応ができるように、市民協働で、市民にもご理解いただきながら、新たな変化にも柔軟に対応していけると良いと思っています。

また、SDGsが各施策にひもづけられたので、市民の皆さんが行動することがSDGsの実現に直結することも、市民協働と同時に意識していただけるような施策展開ができればと思っています。

会長、副会長、また特に起草委員会の方々は大変だったと思います。合わせて事務局の方々にも感謝申し上げます。

にしみや委員 藤江会長、和田副会長をはじめとする委員の皆様方、そして事務局スタッフの皆様方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

この審議会の中でいろいろと発言をさせていただいたので、ここでは繰り返し申し上げることはいたしません、やはり日本は計画行政で自治体が動いていて、PDCAサイクルが基になりますので、上手に総合計画を推進するとともに、指標などを使いこなしていただきたいと思います。

す。

濱中委員 藤江会長、和田副会長をはじめ委員の皆様、本当にありがとうございました。この総合計画に掲げる、「誰もが幸せを感じるまち」、「快適で安全安心なまち」、「人と文化が磨かれるまち」、「うるおいと活力のあるまち」の4つの基本目標については、2029年までの8年間に限らず、永遠のものとして、こうした目標に向かって、苦しい時代も乗り越えながら、魅力あるまちを築いていかなければいけないと感じました。私たち経済界は、この答申(計画)の内容に沿って頑張ってまいりたいと思います。大変お疲れさまでした。

平田委員 青年会議所は、いろいろな事業などを市と協力をしてやっていければと思っています。青年会議所は20代から40代までの青年たちがまちをよくするために活動しているので、この総合計画審議会の中で私が学んだことを持ち帰って、さらにそういう意識を持って活動できるようになっていきたいと思っています。

また、起草委員会にも入れていただきましたが、会長、副会長をはじめ事務局の皆さん、本当に大変だったなと思っています。長い間ありがとうございました。

前川委員 今回の総合計画が、コロナ禍の中で、社会的、経済的な課題が顕在化してきた中で策定されたことは、非常に大きな価値、重みがあったと思います。今回の答申を受けて、府中市がさらなる魅力のあるまちへと進んでいくことを望んでいます。高みへと進むことは非常に痛みを伴いますが、府中市には、本当にいろいろなことをやっているのです。それをもう少し前面に出しながら、次に進むというエネルギーを醸し出していきたいと思っています。

市民活動をする立場から見ると、もうひとつ、ふたつ突っ込んでほしいところはありますが、今回、職員の協働に関する実践力の向上を図るという言葉が入ったことは、非常に大きなことだと思います。府中市がさらに素晴らしい、誰にとっても住みやすいまちになり、そして誰も置き去りにしないまちづくりを進められたら良いと思っています。

増山委員 この審議会では、委員の皆さんから大変活発に意見が出たと感じています。取り仕切りがとっても大変だったと思いますので、藤江会長、和田副会長、本当にありがとうございました。

市民検討会議やタウンミーティングといった形で、多くの市民の皆さんから意見を吸い上げて、この総合計画という最上位計画を作っていることは、この会議に出た私たちは分かっていますが、出ていない市民の人たちは、市役所が勝手に作っているのだらうと思っている人が大半だと思います。みんなで決めるというプロセスを経た最上位の計画だと、多くの市民の皆さんに分かっていただけるように、計画の発表については丁寧に進めていっていただければと思います。

森田委員 私は、21年ほど府中市に住んでおりますが、その大半は夜、寝るために帰るだけで、自分にとって身近な問題にしか目が行っていない状態でした。この審議会を通して、府中にもいろいろな問題、トピック、論点があると改めて勉強させていただきました。出来上がった総合計画ですが、正直、一市民から見れば、市民の皆さんが読んで、目に触れてもらえるのかなという一抹の不安はありますが、小さなところ1つでもいいので触れていただきたいと正直思います。ぜひ今後、広報活動やいろいろな機会を通して、市民の皆さんにPRしていただければと思っています。

森本委員 起草委員会のほうにも出させていただきましたが、皆さんの力が結集して、こうやって答申ができたというのは本当によかったと思います。府中市の観光事業は去年からずっと滞っている部分もあるのですが、この答申を観光協会に持ち帰って、今度は新たなる府中市をいろいろな方にPRできる場を作れたらいいと思います。

2019年のラグビーワールドカップのときを本当に懐かしく思うぐらい、すごく長く感じられるこの1年だったと思います。またいろいろな方をお迎えしながら、皆さんで交流できる場が作れば良いなと思います。

吉田(征)委員 本当に何も知らないでこの審議会に初めて参加させていただきました。会長、副会長、事務局の方をはじめ、いろいろな団体から代表の方がいらして、活発なご意見を伺い、このような立派な総合計画ができましたことに感激しております。

正直な話、私も含めてシニア連の老人会の皆さんは、総合計画があることをほとんど知らないようです。このような立派なものができましたので、ぜひ会に持ち帰って、皆さんと読んで勉強させていただきたいと思っています。本当にいい経験ができました。

事務局 本日欠席されている吉田ゆり子委員からもご感想をいただいていますので、代読させていただきます。

このたびは、府中市総合計画立案に関わる審議に参加させていただき、ありがとうございました。府中市では総合計画を、住民や地域に所在する諸機関との協働により策定されているということ、この審議過程で知ることができました。貴重な経験をさせていただきました。

府中市の持つ文化的特質と歴史を生かし、景観にも配慮をしたまちづくりをされることを祈念しております。府中市のますますのご発展をお祈りしています。

和田副会長 会長の補佐役として十分な手助けができたかどうか分かりませんが、私自身としては大変勉強になりました。コロナ禍の中、行動が制限されながら総合計画の答申が出来上がったのは、キーワードとして絆、未来、豊かに暮らせるまち府中、これを基本として真摯に討議をしていただいた賜物だと思います。

また、起草委員会の皆様には、審議会で出た200を超えるご意見等について、1つ1つ丁寧に検討をしていただきました。審議会は都合10回ですけれども、これとは別に起草委員会は7回開催しました。オンラインの討議も含め、府中の今後について4つの基本目標を確認しながら熱心に審議を重ねました。総合計画に掲げるまちづくりの方向性などを多くの市民の方々と共有して、協働のシステムを使いながら、安全、安心、そしていきいきと暮らすことができるように、市が中心となり各種取組を着実に推進していただきたいと思います。

最後に委員の皆様、とりわけ起草委員会の皆様には大変お世話になりました。ご協力ありがとうございました。

藤江会長 1人1人のお名前を申し上げることはできませんが、委員の皆様方、事務局の方々には、答申に至るまで大変ご尽力いただきました。

私が今回とてもよかったと思うのは、皆様方のいろいろな意見、今日も多様性という言葉が出てきましたが、これはとても大事なキーワードだと思いますし、持続性についても、先ほどの住み続けたいまちとして府中が選ばれているということはとても良いことで、羨ましいと思っています。

また、私がこだわったのは、総合計画が上位計画で、その下位に個別計画が位置しているという関係性について、私の認識が十分ではなかったということが分かりました。

もう1つは、この総合計画を市民の皆さんが読んでくださるのか、ということですが、読んでもらうための発信については、皆さんからアドバイスがあったと思います。この計画を実行するためには、市民協働で知恵を出すことが必要だと思いますが、私は府中市の市民の方や市の方々は知恵を出してくださると思います。私の学生時代だと地方自治という言葉がメジャーでしたが、その後、地域経営とかいろいろな言葉が出てきましたけれど、今は市民協働という言葉がそれを代弁し、表現していると思います。これを高く掲げている府中市は、やはり一番大事なところに焦点を当てているのだなと思いました。

不十分だったかもしれませんが、審議会では多様な意見を発言していただく機会を作るように心がけましたし、まとめのところでは和田副会長をはじめ起草委員会の先生方を困らせてしまった部分もあったかと思いますが、最後は事務局がまとめてくださって、今日、高野市長に答申としてお渡しすることができました。

今回の総合計画の策定プロセスについては、記録として残して、次回の総合計画を策定する時期、あるいは後期の計画が策定される時にいかしていただきたいと思います。府中市民ではない私が会長をしているので、コンサルタントのような外部の人の感覚があって、本当はこれを実行するために何かしなくてはいけないのですが、市民ではないので外から計画が実行されるようにと願っております。委員の皆様方、事務局の方々にその点でのご協力をお願いして、私からのお礼と感謝の言葉に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、今、皆様方からのお話をお聞きいただいた高野市長から、ご感想等ありましたら、よろしくお願いたします。

高野市長 改めまして藤江会長、和田副会長をはじめ、委員の皆様から厚く御礼を申し上げます。

先ほど会長からこの答申の冊子を受け取りまして、非常に重く感じました。この資料の重さやボリュームもそうですけれども、この中に込められた皆様方のご意見、そして市民検討会議、タウンミーティングなどで触れ合った多くの皆さんの顔も私の記憶の中にありまして、それら全ての皆さんの思いを受け取ったということで、非常に重く感じました。

この冊子を見る、あるいは読み込む、これはもちろん一番大事なことです。先ほどの会長のご挨拶の中にもありましたように、そのプロセスの中で、いかに参加された市民の皆さんや、その方々を取り巻く市民の皆さんがこのまちへの愛着を持っていただいているかということを感じ

ました。まちへの愛着が皆さんの期待であり、そして強い要望であるわけですから、この計画をしっかりと進めていく責任の重大さを痛感したところであります。

そして、これも委員の皆さんの感想の中にあった言葉ですが、変化という言葉です。これまでの府中市の足跡というのは、今、市政67年目を迎えています。人口もずっと増加してきて、産業もいろいろなときがありましたけれども、比較的順調に成長してきたと捉えることができます。しかし、この計画の8年間はいろいろな意味で変化することになる、今まで当たり前だったことが当たり前ではなくなる、そういったことが府中市においても起きるだろうと想定はしていたのですが、まさに、コロナで私たちの生活は一変し、そして価値観も、また皆さんそれぞれのご家庭における動きも大きく変わってきました。市政運営についても同様に変化をしていくことが最も大事だと改めて思いました。計画をしっかりと進行させながら、未来を拓いていくための勇気を持って変わっていかねばなりません。これからの8年間は、その先の府中の未来にもものすごく大きな影響を及ぼすのだろうと強く思った次第です。

もうひとつ、皆さんからいただいたご意見の中で、印象に残ったのは、歳入に合わせた歳出ではなくて、歳出に合わせた歳入だろうというお話をいただいて、本当に目からうろこの思いでありました。健全財政の維持のためには、どうしても歳入に合わせた市政運営を考えますけれども、しかし、市民の皆さんの思い、市民のニーズに応えていくためには歳出が重要なわけで、それをいかに確保し、この計画に合わせて実践していくことができるか、そのための財政の在り方をどのように考えていくか、当たり前のことですがけれども、今日改めて強く思いました。

この計画を市民の皆さんに広く周知し、ご理解いただいて、そしていかに協働の体制をさらに広げていくか、これが今回の第7次府中市総合計画のスタートに当たっての鍵になるのだろうと思います。本日もご出席の皆様方の今後ますますのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げまして、私の感想を踏まえた今の決意とさせていただきます。

ありがとうございました。

会長 高野市長、ありがとうございました。それでは以上をもちまして、第10回府中市総合計画審議会を閉会させていただきます。

委員の皆様には長期間にわたり、本当にご協力ありがとうございました。私と和田副会長はこれで正副会長の任を解かせていただきます。以降は事務局に引き継ぐ形になります。

事務局 会長、副会長、ありがとうございました。そして委員の皆様、たくさんの貴重なご意見等いただきまして本当にありがとうございました。本日を含めてこれまで頂きましたご意見につきましては、今後の施策展開、そして少し気が早いようではございますけれども、後期の基本計画策定に向けても参考とさせていただきます、またいかしてまいりたいと考えています。

事務局 最後に1点、事務局からご連絡をいたします。第7次府中市総合計画前期基本計画の重点プロジェクトにつきましては、進行管理の項目でご説明させていただきましたとおり、来年度以降、外部評価の実施を考えてまいりたいと思っています。これまで総合計画の策定にご尽力を賜った委員の皆様の中からも評価委員としてご協力をいただく場合があるかもしれませんので、よろしくお願いいいたします。

以上をもちまして、総合計画審議会を終了させていただきます。藤江会長、和田副会長、並びに委員の皆様には長期間にわたりご尽力を頂き、誠にありがとうございました。

以上